

施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
貞享義民記念館 TEL 77-7550	シルバーカフェ安曇野 作品展	9月2日(土)～10日(日) 9:00～17:00 場1階企画展示室	費無料(常設展は有料)
	第12回白鳥写真愛好会写真展	9月15日(金)～24日(日) 9:00～17:00 場1階企画展示室	
安曇野高橋節郎記念美術館 TEL 81-3030	ちんきん漆パネル加飾講座	9月2日(土)13:00～16:00 9月3日(日)9:30～15:30 場主屋	費4,000円 定10人(先着順) 申8月29日(火)から電話で
	漆塗りはし加飾講座	9月18日(月・祝)、10月22日(日) 13:00～16:00 場主屋	費2,500円 定10人(先着順) 申8月29日(火)から電話で
安曇野市文書館 TEL 71-5123 FAX 71-5127	講座「里山の観音信仰—古文書にみる栗尾山満願寺の心象風景—」 園逸見大悟(市文化課職員)	9月24日(日)13:30～15:00 場堀金公民館講堂	費無料 定100人(先着順) 申8月28日(月)から電話、ファクス、電子メールで
☒bunshokan @city.azumino. nagano.jp	ここから始める古文書解説 「読んでみよう、くずし字」講座 園松澤果穂(市文化課職員)、 地域資料調査員	10月2日・16日・30日、11月13日 ・27日(月曜日) 10:00～12:00 場2階講義室	費500円 定15人(先着順) 申8月28日(月)から電話、ファクス、電子メールで

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください

安曇野市文書館後期企画展 「文書館開館5周年記念—受け継がれる地域資料—」



文書館が収蔵する地域資料の中から、新たに発見された資料や代表的な資料を紹介し、地域資料調査の歩みを振り返ります。

9月14日(木)
▶12月28日(木)



開館時間 9:00▶17:00
休館日 土曜日・祝日
入館料 無料 ☎TEL71-5123



「家の墓」が多数並ぶ霊園(穂高墓地公園)

お墓のあり方は、社会の変化や家のあり方とともに大きく変化しています。草が繁茂し荒れ果てた墓も目立つようになり、子どもがいないなど、自分の死後のお墓の管理を心配する人もいます。永代供養墓などの継承を必要としない墓も増えています。

ただ近頃は、家族のあり方の多様化、少子高齢化によって、「家の墓」を守ることが困難になってきています。草が繁茂し荒れ果てた墓も目立つようになり、子どもがいないなど、自分の死後のお墓の管理を心配する人もいます。永代供養墓などの継承を必要としない墓も増えています。

市誌編さん委員会
委員長 原 明芳

コラム 市誌編さんだより 第14回 「家の墓」の行く末

安曇野高橋節郎記念美術館

開館20周年記念展

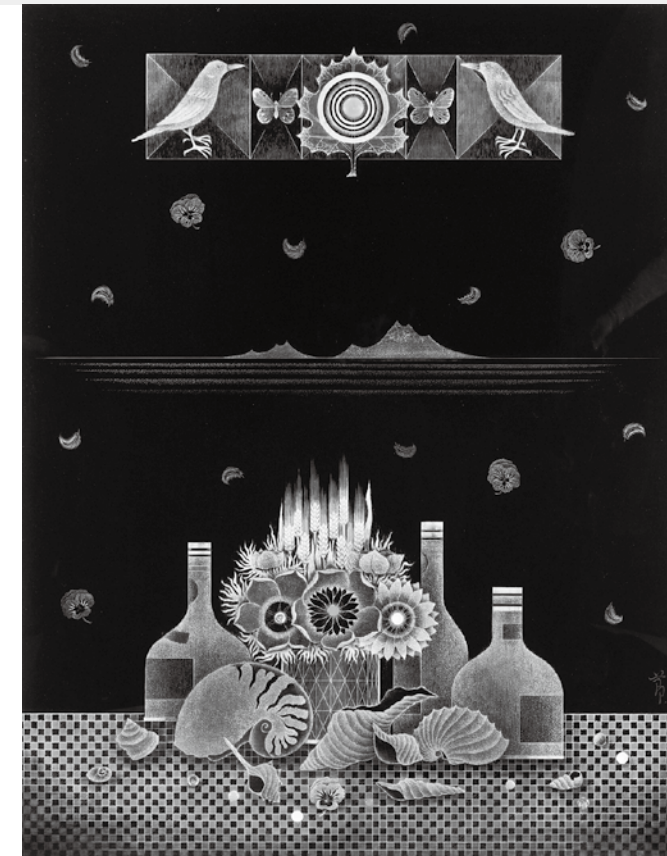
あなたの節郎

普段見ることのできない貴重な個人コレクションと、県下の公立美術館等に収蔵されている作品を紹介する特別展です。地域とともに歩んだ20年を振り返ります。

9月14日(木)▶12月10日(日)

安曇野高橋節郎記念美術館
Takahashi Setsuro Art Museum of Azumino

開館時間 9:00▶17:00 入館料 一般620円
問い合わせ TEL81-3030



高橋節郎《麗日》1995年 穂高神社蔵



特別展オープニング 生誕記念コンサート「歌は世界を結ぶ」

9月17日(日)
13:30～15:00
場主屋
費要入館料
定100人(当日先着順)

演奏者
ナターリア・コズローヴァさん(ソプラノ)
/ウクライナ出身
西尾 知子さん(ピアノ)/大阪府出身

東京藝大安曇野 AIR
年輪スタンプ
制作講座



会場周辺の森を散策し集めた枝を、断面の年輪を浮き立たせるように加工し、スタンプを作ります。

9月16日(土)
13:00～16:00
場鐘の鳴る丘集会所
講白井仁美さん(木工作家)
費無料
定10人(先着順)
申8月29日(火)から9月12日(火)に
電話で
☎文化課 TEL71-2463

京都芸術大学芸術教育プロジェクト 作品展示



瓜生山学園京都芸術大学大学院生が、市内を探訪し制作した作品を展覧します。豊科北中学校美術部と共同制作した作品も展示します。

9月17日(日)～24日(日) ☎文化課 TEL71-2463
場穂高交流学習センター「みらい」
安曇野高橋節郎記念美術館、豊科近代美術館ほか

Voice プロジェクト指導者 京都芸術大学教授 保科 豊巳さん



本プロジェクトは、次世代の文化中心地の形成を目指して、クリエイティブな人材を育成し、発想力のある明るい未来地域を創出することを目的とし取り組むものです。現代の若者の赤裸々な感情が伝わり、才能の芽生えがみえる作品展示となるでしょう。